

飛鳥資料館開館50周年・「奈良県飛鳥池遺跡出土品」重要文化財指定記念

主催：独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館

後援：NHK、朝日新聞社、近畿日本鉄道株式会社



令和7年度 秋期特別展

古代技術 の精華

— 飛鳥池工房 —

2025 11.5^{Wed} - 12.14^{Sun}

※会期中に一部展示品に展示替えあり

開館時間 9:00～16:30 (入館 16:00まで)

休館日 毎週月曜日(祝日と重なれば翌平日)

入館料 一般 350円、大学生 200円
70歳以上・高校生および18歳未満は無料

※障がい者とその介護者各1名は無料



独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館 〒634-0102 奈良県高市郡明日香村奥山601-1 TEL 0744-543561

奈良文化財研究所 飛鳥資料館



3条の塀と石敷井戸・谷底の炭層

令和7年度 秋期特別展

古代技術 の精華

— 飛鳥池工房 —

本令和7年(2025)は、奈良文化財研究所飛鳥資料館開館50周年にあたります。今年3月には、奈良文化財研究所が所蔵している「奈良県飛鳥池遺跡出土品」の重要文化財指定が決まり、50周年を迎える本年をより意義深いものとすることができました。

奈良文化財研究所は長年にわたり飛鳥地域での発掘調査にとりこんできました。そのなかでも、飛鳥池遺跡の調査は古代の巨大工房の実態を解明した特筆すべき成果です。飛鳥池遺跡の中心である工房では、7世紀後半を中心として金・銀・銅・鉄・ガラス・漆を用いた品々が生産されていました。発掘調査では膨大な量の金属製品・土器・瓦などの工房と関連する遺物や廃棄物がみつき、木簡も多数出土しました。そして、ここでは宮殿などを飾った調度品や、実用の道具、祭祀具などの品々が製作されたほか、和同開珎をさかのぼる最古の铸造貨幣である富本銭の生産もおこなわれていたことが明らかとなりました。飛鳥時代の国家形成を支えた巨大な総合工房として、飛鳥池遺跡はいまや名実ともに飛鳥を語る上で欠かすことのできない重要遺跡の一つと言えます。

このたび、飛鳥池遺跡から出土した膨大な遺物のうち、工房に関わるものを中心として主要な出土品643点が重要文化財に指定されました。本展覧会では、重要文化財指定品を多数展示してご紹介し、飛鳥池遺跡の工房の全貌と古代の技術に迫ります。

本展覧会がみなさまと飛鳥池遺跡出土品の出会いの場となり、これからの飛鳥資料館の活動へとつながるきっかけになれば幸いです。

講演会

会場：飛鳥資料館講堂 開演：13:30 (13:00開場) 終了：14:30頃

※事前申し込みは不要です。参加には観覧料が必要です。

第1回 ○月○日

「○○○○○○○○○○○○○○○○」 講師：石橋茂登

第2回 ○月○日

「○○○○○○○○○○○○○○○○」 講師：谷澤亜里

ギャラリートーク

※事前の申し込みは不要です。

10月10日(木)、11月21日(木) 14:00~



飛鳥池工房遺跡の出土品

〈アクセス〉

○近鉄橿原神宮前駅・飛鳥駅から明日香周遊バス(赤かめ)で「明日香奥山・飛鳥資料館西」下車 ○近鉄・JR桜井駅から奈良交通バス(36系統：明日香奥山・飛鳥資料館西行)で「飛鳥資料館」下車
○駐車場 無料 普通車 10台分(近隣に有料駐車場あり)

IMPORTANT CULTURAL PROPERTY